

2014年度 国立衛研の一般公開 Rev2.1

－医薬品や食品等の品質確保、安全性、有効性を求めて－

企画調整主幹付 宮原 誠

7月26日（土曜日）、国立衛研の2014年度一般公開が行われた。朝からの暑さにかかわらず、夕方までに250名余の来場者を迎えた。各部はパネルや展示実験などで日頃の研究の成果の一部を示した。午後には衛研講座も例年どおり開講され、100席余りの会場は人々で満席になり、立ち見の参加者も多数あった。午前10時から午後4時まで予定通り実施された。

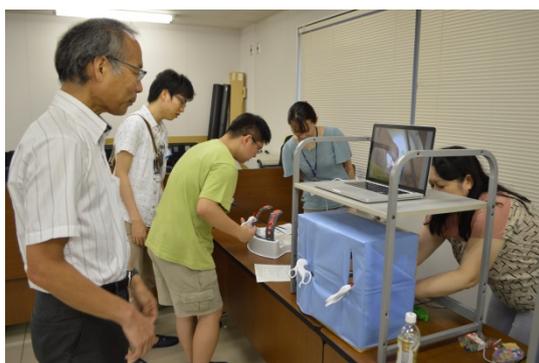
午前中には100人以上の来場者を数え、昼には気温は31.5度を超える暑さの中、夕方までには251人の来場者を数えた。来場者の中には家族連れで参加する人も多く、ちびっ子達の声が元気に庁舎内に響き、活気が溢れた。

今年も実験参加型の展示は人気の的であった。医療機器部の“医療機器に触ってみよう”、食品添加物部の“ナイロンを作ろう”、変異遺伝部の“DNAを見てみよう”、病理部の“細胞染色の実験と検鏡体験”などに見学者の関心は高く、実験系ラボにふさわしい展示となった。特に医療機器部の展示では、共同研究を行っている大学等の協力を得て、内視鏡手術訓練装置の実物が設置され、見学者なら誰でも装置を動かすことが出来た。体験の順番を待つ人の列が出来るほどの人気ぶりであった。

衛研講座の演題は”① やさしい病理学のはなしー安全性評価のキーマン② iPSC細胞と再生医療”で、それぞれ30分ずつ講演が行われた。会場では100人を越える人々が講師の話に聞き入っていた。

昼過ぎには、暑さのために火災報知器が誤作動するという不手際もあったが、熱心に説明を聞いていたためであろうか、4時の閉門時を過ぎても、所内には帰宅する人の流れが続いていた。

これらの講演や公テーマの詳細内容は <http://www.nihs.go.jp/oshirase/joho/ippankokai/h26/3.theme.naiyou.20140602.pdf>に掲載されている。



展示実験 医療機器に触ってみよう

東京世田谷 国立衛研第一会議室にて撮影 2014年

このボックストレーナーは棚の上の画面を見ながら、棚の下の白いレバーを操作して、その下の青い布で覆われた箱の中に置かれたおはじきや小さな球をつかむなどして、内視鏡手術用鉗子操作等の初歩訓練を行うもので、実際に医師などの訓練に使用される。この他に、コンピューターを使った3Dバーチャルリアルティ・トレーナーも展示された。